


井田川地区南

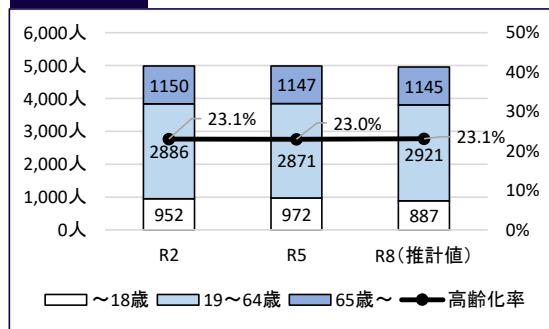
◆概要

	【位置図】	まち協名	井田川地区南まちづくり協議会		
		所在地	亀山市和田町813	電話	0595-82-2004
		地区構成	栄町 井尻町 小下町 和田町 井田川町 川合町(ひとみヶ丘・山田自治会を除く)		
		地域特性	亀山市の東に位置しており、24自治会で構成されています。地域を旧東海道が縦断しており、谷口法悦題目塔、石上寺、和田一里塚、井尻古墳や近くには、日本武尊能褒野御陵や峯城址等の史跡があります。JR関西線及び国道1号線が東西に縦断しておりJR井田川駅は、通勤・通学の足として重要な交通拠点となっています。駅前整備を機に定期バス乗り入れが実現して、史跡探索の出発点となっており、また東海道沿いには全国にその名を知られたカメヤマローソクの工場もあります。		
面積	426.9ha	ホームページ	https://idagawaminami.wordpress.com/		
めざす姿	井田川小学校と亀山東小学校、亀山中学校と中部中学校の学区の分け隔てのないまち				
地域の誇り	井田川駅のシンボル「ヤマトタケルノミコト像」の管理をしている				

◆人口

	令和2年	令和5年	令和8年 (推計値)	増減	
総人口	4,988人	4,990人	4,953人	2人	
人口密度	11.68人/ha	11.69人/ha	11.60人/ha	0.00人/ha	
65歳以上	人口	1,150人	1,147人	1,145人	-3人
	比率	23.1%	23.0%	23.1%	-0.1%
18歳以下	人口	952人	972人	887人	20人
	比率	19.1%	19.5%	17.9%	0.4%
外国籍	人口	241人	238人	-3人	
	比率	4.8%	4.8%		-0.1%

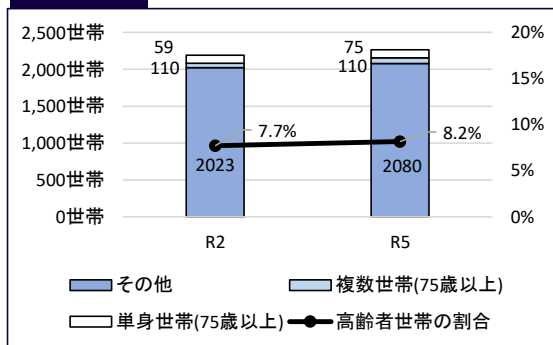
◆人口推移



◆世帯

	令和2年	令和5年	増減
総世帯	2,192世帯	2,265世帯	73世帯
単身世帯 (75歳以上)	110世帯	110世帯	0世帯
複数世帯 (75歳以上)	59世帯	75世帯	16世帯
高齢者世帯割合	7.7%	8.2%	0.5%

◆世帯推移



◆介護保険認定者

	令和2年	令和5年	増減
要支援1.2	68人	76人	8人
要介護1~5	139人	132人	-7人
合計	207人	208人	1人

◆地域組織

	令和2年	令和5年	増減
自治会	24	13	-11
老人クラブ	2	1	-1
子ども会	2	2	0

◆福祉・医療・教育等に関する社会資源

民生委員・児童委員	7
主任児童委員	1
福祉委員	25
介護保険施設・事業所	5
サービス付き高齢者向け住宅・有料老人ホーム	1
障がい福祉施設・事業所	2
児童福祉施設・事業所	0
病院・一般診療所	4
歯科診療所	3
薬局	5
保育所	2
幼稚園	0
認定こども園	0
放課後児童クラブ	0
放課後子ども教室	0
子育て支援センター	0
学校(小・中・高)	0
乗り合いタクシー停留所	30

◆担当地域包括支援センター

亀山第1地域包括支援センター ぼたん

◆サロン活動

	令和2年	令和5年	増減
ふれあいいきいきサロン	1	1	0
子育てサロン	0	0	0
コミュニティサロン	1	2	1

◆福祉委員会活動

◆構成員 まち協役員 民生委員・児童委員 福祉委員

◆活動内容

【交流活動】
ふれあいグラウンドゴルフ大会を年2回開催し、三世交代流を行っています。
【訪問活動】
80歳以上の高齢者に対し、訪問活動を行っています。
【その他】
福祉委員の知識向上のための研修会を行っています。



趣味の作品展・ふれあいバザー



さつま芋掘り体験

◆まちづくり協議会の恒例事業

- ・ソフトボール大会
- ・グラウンドゴルフ大会
- ・親子ふれあいデー
- ・趣味の作品展・ふれあいバザー
- ・敬老会
- ・さつま芋掘り体験
- ・健康まつり
- ・ねんりんフェスタ

◆生活支援コーディネーターからのコメント

井田川地区南の人口は市内で3番目に多い4,990人で、そのうち23.0%にあたる1,147人が65歳以上です。地域内2,265世帯のうち、8.3%にあたる185世帯が75歳以上のみで構成されています。また、地域内人口の4.8%にあたる238人が外国籍です。

地域の特色として、地区内で買い物や通院がしやすい環境であり、近年は若い世代の人口が増加傾向にあります。そのため、グラウンドゴルフ大会やプラレール運転会などには多くの家族連れが参加し、積極的な三世交代流が行われています。なかでも、さつま芋掘り体験は、コロナ禍において感染対策を徹底しながら令和3年度より開催し、令和5年度は100名近い親子が参加するなど新たな地域行事として浸透してきています。今後も若い世代がさまざまな行事に参加できる環境を生かし、地域の活動に興味・関心を持ってもらうことで持続可能なまちづくりにつなげていくことが期待されます。